

「次代を見据えた市政運営」を目指して



再開発ビルの建設が着々と進むJR成田駅東口

あけましておめでとうございます

市民の皆様には、平成26年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

ことは午年です。十二支の午は動物の馬が充てられています、馬が使われていることわざに「書を以て御する者は馬の情を尽くさず」があります。これは書物から得た乗馬の知識だけで馬に乗りうとしても、馬の気持ちを理解しなければ自由に乗りこなせないことから、実践に基づかない書物だけによる学習では、実情に疎く、実際の役に立たないことをいいます。

私も市政を預かる身として、このことわざを胸に、市政運営に当たりたいと思います。引き続き地



成田市長
小泉 一成

域の行事などに積極的に向き、さまざまな世代の方から生の声をお聞きすることで、市民のニーズを的確に把握し、現在だけでなく次代をも見据えた市政運営を目指します。

また、本年は市長に就任してから、2期目の最後の年です。この間、公約に掲げた11指針35の項目は、ほぼ達成される見込みですが、大学などの高等教育機関の誘致については、引き続き公津の杜駅前への大学誘致事業を推進していきます。

本年も市のさらなる飛躍と発展のため、全力を尽くしていく所存です。

**市制施行60周年を
皆さんとともに**

本市は昭和29年3月に1町6村が合併して誕生し、本年度で市制施行60周年を迎えます。

さまざまな記念事業を通して、市民の皆さんと一緒に祝っていきたいと考えています。

オリンピックを 追い風に

2020年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決まりました。成田空港を擁する本市としては、これをさらなる発展の機会と捉えています。

国内の観戦者に成田にも足を運んでもらうほか、海外からの選手団・観戦者が成田を素通りすることのないよう、成田の観光資源と魅力を国内外に発信していきます。観光客を増やすことで、経済振興に結び付けていきます。

また、市内の充実したスポーツ・宿泊施設を生かし、選手団のキャンプ地誘致を進め、市民への



スポーツを通して心身を健康に

スポーツ振興を図っていきます。

さらに、オリンピックという追い風を受けて、「圏央道(首都圏中央連絡自動車道)」や「北千葉道路」の早期完成、成田・羽田の両空港を結ぶ「都心直結線」構想の早期事業化など、成田空港と都心とを結ぶ交通網の整備を、国や関係団体に強く働きかけ、成田空港の利便性の向上につなげていきます。

特に、本県を縦断する圏央道は、神崎・大栗間が平成27年3月までに開通予定となっていますが、大栗・横芝間は開通時期が未定であるため、早期完成を訴えています。

空港と共に 伸びゆくまちを

成田空港における昨年度の航空機の発着回数は、開港以来初めて、20万回を超え約21万2,000回となりました。LCC(格安航空会社)の就航などにより、国内線の旅客数も前年度の2倍近い約372万人に達するなど、日本の空の表玄関として、着実に成長・発展しています。

このような中、昨年7月に本市をはじめ県内の企業・団体・自治体など約150団体が参加して

「成田空港活用協議会」が発足しました。この協議会では、成田空港を核に、人・物・財の流れを県内観光に結び付け、県全体の経済活性化が図れるような仕組みづくりを一丸となって進めています。

また、騒音対策の一環として、昨年7月から共生財団が事業主体となり、A・B滑走路に係る騒音法第一種区域および谷間地域で、現行の防音工事に追加して、新たに拡充工事を行っています。市もこの工事に助成するなど、今後とも空港と共生するまちづくりを進めていきます。

新しい駅前に向けて 着々と

JR成田駅東口の再開発事業では、新しい駅前の核となる、再開発ビルの建設が着々と進んでいます。今後も成田の顔にふさわしい駅前整備を進めていきます。

成田ブランドの さらなる展開

これまで取り組んできたロケ誘致・グルメ開発・戦略的情報発信に加え、本年は観光資源の磨き上げや、外国人観光客の取り込みを図っていきます。

これに先立ち、昨年10月には官

民合同のプロモーション団と市の観光キャラクターうなりくんをロサンゼルスに派遣し、成田空港の乗り継ぎ客向けの市内観光プランや、成田の魅力を関係機関にPRしました。

今後も、海外の作品も含めた映画・ドラマなどのロケを積極的に受け入れることで、国内外からたくさん観光客を呼び寄せると同時に、消費拡大に向けて、市内の名産品のさらなる地位向上と「成田ソラあんばん」の普及を図っていきます。

温かきと思いやりに満ちた まちづくりを目指して

昨年7月からコンビニエンスストアで住民票や戸籍謄本などが取得できるようになりましたが、本年は市税や介護保険料が、クレジットカードで納付できる制度を4月から導入し、サービスの拡充を図ります。

子育て支援では、国の「子ども・子育て支援新制度」に基づくサービスの提供に取り組むとともに、保育園の改修や児童ホームの整備を順次進めていきます。子育て環境を充実させることで、安心して子どもを産み育てられるまちづくりを目指していきます。



安心して子育てができる環境を

高齢者福祉では、70歳以上の方の移動手段としてオンデマンド交通を実施していますが、引き続き利便性の向上と利用者の増加に努めていきます。また、健康・生きがいづくりの拠点として整備を進めている「(仮称)いきいきプラザ赤坂」の早期完成を目指し、生きがいを育めるまちづくりを進めていきます。

結びに、本年も市民のニーズを的確に捉えた施策を実践し、温かきと優しい思いやりに満ちた『住んで良し、働いて良し、訪れて良し』の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに努めます。

市民の皆様温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。